

本号は議会報告の拡大版です! 通常版は不定期で郵送させていただいております。区政の最前線での情報を希望される方は左のメール宛、または住所宛にご連絡下さい。また感想・情報もお待ちしております。字が小さいのはご容赦のほど

オトナの政治事情を優先させ子供たちを...

大丈夫か? 保坂区政

この財政難に税金30億円投じて作るハコモノの正体とは?

世田谷区では建設費や維持管理コストを下げようとして施設を一つの建物に集合させる手法を取っている。(世田谷区の公共施設の数700を超え、のべ床面積は100万平米) ◆その一環として平成25年4月オープンをめざして池尻に現在建設中の4階の建物がある。土地建物あわせて30億円のシロモノ ◆近隣に散在していた保育園、児童館、地区会館を一カ所に集めて複合施設にするのである ◆ここまではそれぞれの施設の老朽化という面から賛成である ◆しかし、さすが行政というか、この施設には今までにない施設が加わっているから驚きである。しかもその施設の方が面積的に一番大きい ◆近隣施設の複合化は口実に過ぎず、実際はこの新たな施設を作るのが目的でなかったかと思えるほどである。その施設の名称は「健康増進・交流施設」である。



問題の池尻複合施設 平成25年4月オープン予定

「健康増進・交流施設」って何?

- 有料のカラオケ施設。有料のダンス発表会施設。
- 有料のミニシアター兼用の多目的ホール。
- 有料マージャン室、有料囲碁・将棋娯楽室。
- 有料の運動トレーニング室。
- 最高1万5千円のコース料理や1人1万円のパーティー料理を出せるレストラン。

信じられますか? 上記が区の説明です。池尻と言えば三軒茶屋の隣、これらの施設は民間にいくらでもあります ◆財政危機と言いながら30億円の施設の半分以上、4階建てのうち3階・4階部分がこれらの施設なのです ◆つまり15億円かけてこんな施設を作っているのです。保育施設が足りなくて困っている区民が大勢います。高齢者のショートステイが足りなくて困っている区民が大勢います ◆ならばそっちを優先するのが正しい税金の使い方ではないでしょうか ◆この施設の設置条例は「みんなの党・世田谷行革110番」と民主党が反対し、そのほかは全部が賛成でした。(3月2日の本会議で決定!!)

「大型開発見直し」どころか「小型ハコモノ見直し」もできない保坂区長の力量

保坂区長といえば「大型開発見直し」が公約だったはず。京王線地下化や二子玉川再開発に比べれば、池尻の施設は100%区立施設であり、保坂区長の権限で用途転換(中の施設の内容だけを変えること)はできるのである。これさえも出来なかったことからすれば、「大型開発の見直し」などムリ。

一年たつてわかつたこと 一年たつてわかつたこと 保坂区長を好きな人も嫌いな人も等身大の区長の姿を知ろう

2月4日の東京新聞。柏市が「汚染状況重点調査地域」に指定されたことを受け、柏市で行われていた文京区の移動教室を中止した。川場村も同指定を受けている。

川場移動教室を安全と言い切る「脱原発」区長

川場村の移動教室は今から26年前に始まり、区立小学校の5年生を対象とする二泊三日の宿泊体験。年間で約5200人の小学生が参加する ◆ところがこの川場村は昨年の福島原発の爆発と気流の関係で放射能を受けてしまった ◆その結果、村が公表する放射線量は昨年の9月16日で0.5マイクロシーベルトアワーであり事故後に計測を始めて以来9月まで変わっていない(この数値は世田谷区内の10倍以上) ◆そこで昨年9月の代表質問で議会として初めて「中止すべきだ」と取り上げ、他の多くの会派も声を挙げ始めたが保坂区長は優柔不断な対応で結果として9月以降の後半の移動教室を再開続行してしまったのである。

柏での移動教室中止

文京区

区立小の恒例行事

区立小の恒例行事として、毎年2泊3日の移動教室が行われていたが、福島原発事故の影響を受け、放射線量の増加が懸念され、今年度は中止する。代替として、区内の小中学校で防災訓練や避難訓練を実施する。

武蔵野市では川場村での小学生体験中止に

◆実は私たちの調査では武蔵野市も同様の宿泊体験を川場村で行っていたが、すでに中止していることがわかった ◆このことを今年2月の代表質問でぶつけたが区の答弁は武蔵野市は5泊6日で世田谷区は2泊3日だから安全だという ◆もちろん川場村の人たちにすれば「移動教室中止」と私が叫べば傷つくと思う。友好関係に影響するだろう。しかしそれは「オトナの事情」である。まだ体の成育が未成熟な子供をわざわざ線量の多い所に行かせる必要があるだろうか ◆ましてや保坂区長は「脱原発」を掲げて当選した区長である。それならば放射線の危険性について、もっと敏感でなければ「看板倒れ」ではなかろうか。

川場村との関係を今こそ

友好関係にある川場村が困っていれば、いくらでも力を貸すのは当然である ◆しかし子供たちの健康は大人たちの責任である。「川場村は大丈夫とは思いますが一応念のため中止する」と言える関係こそが友好の証ではないのか ◆逆に友好関係にあるから断りづらいというのは何なのだろう。友好関係にない武蔵野市は即中止である。また文京区も柏市の移動教室を中止した ◆じっくり話しあえる関係のもと、むしろ川場村の子供たちを世田谷に受け入れるとか、そういう方向での解決はできないのだろうか。どこにあっても子供の安全が最優先のはずだ ◆

大人の事情に関しては、世田谷区が放射線量を細かく測定し、農産物の安全性を保証して宣伝消費するとか、除染の手助けをすとか、あると思う。(ちなみに川場村の一般会計の規模は約28億円。例えば左の健康増進施設のハコモノを作ったら残金ゼロである ◆つまりいくら川場村が除染の努力といっても財政的に無理があるのではないかと思う...)



都政専門紙に私の代表質問が掲載され世田谷区の姿勢が問われた(昨年9月22日都政新報)